

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】令和 2 年 5 月 28 日 (2020.5.28)

【公開番号】特開 2019-96492 (P2019-96492A)

【公開日】令和 1 年 6 月 20 日 (2019.6.20)

【年通号数】公開・登録公報 2019-023

【出願番号】特願 2017-225287 (P2017-225287)

【国際特許分類】

H 0 1 B 5/02 (2006.01)

H 0 1 B 5/08 (2006.01)

H 0 1 B 5/12 (2006.01)

H 0 1 B 7/00 (2006.01)

H 0 1 B 7/18 (2006.01)

H 0 1 B 7/04 (2006.01)

B 6 0 R 16/02 (2006.01)

【 F I 】

H 0 1 B 5/02 Z

H 0 1 B 5/02 A

H 0 1 B 5/08

H 0 1 B 5/12

H 0 1 B 7/00 3 0 1

H 0 1 B 7/18 D

H 0 1 B 7/00 3 0 6

H 0 1 B 7/04

B 6 0 R 16/02 6 2 0 Z

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 4 月 13 日 (2020.4.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 4 8 】

(塩水噴霧試験)

試料 1 を 1 2 0 で 1 0 0 0 時間放置した。次いで、この試料 1 に、5 重量 % N a C l 水溶液 (液温 3 5) を 9 6 時間噴霧した。次いで、この試料 1 を、8 5 、9 0 % R H の高温高湿条件下で 9 6 時間放置した。上記塩水噴霧試験後の試料 1 の腐食状態をマイクロスコブを用いて観察した。その結果、試料 1 は、塩水による腐食が発生し、腐食抑制効果がなかった。この試料 1 の腐食状態を「 C 」とする。次いで、上記と同様に、試料 2 ~ 試料 8 について、塩水噴霧試験を実施した。試料 1 と比べて塩水による腐食が抑制されており、外層全体に占めるピンホール割合が 1 % 以下であった場合を「 A + 」とした。試料 1 と比べて塩水による腐食が抑制されており、外層全体に占めるピンホール割合が 1 % 超 3 % 以下であった場合を「 A 」とした。試料 1 と比べて塩水による腐食が抑制されており、外層全体に占めるピンホール割合が 3 % 超 5 % 以下であった場合を「 B + 」とした。試料 1 と比べて塩水による腐食が抑制されており、外層全体に占めるピンホール割合が 5 % 超 1 0 % 以下であった場合を「 B 」とした。なお、「 B 」は、塩水による腐食が許容範囲内で生じたものの、腐食抑制効果が少なからずあったといえる場合である。以上の結果をまとめて表 1 に示す。